

だれ
大人が読んでも面白い

ヤングアダルト フックス
YAの本 その1



小平図書館友の会 YA を楽しむ会



この冊子は、小平図書館友の会の中の学習会
「YAを楽しむ会」のメンバーが、2006年
8月22日から、2012年4月までに読んだ
121冊の本の中から、大人（だれ）が読んで
も面白いおすすめの本37冊を紹介したもので
す。

おすすめ文は、つたないけれど、おすすめす
る本のほうは、最高に面白い！

とにかく一冊、手にとってみてください。

一同



※ YA＝ヤングアダルトブックス は、主に、ティーンエイジ
ャー向けの本のことです。

目 次

歴史・成長物語	5
『緋色の皇女アンナ』	5
『思い出のマーニー』 上・下	5
『海の島 ステフィーとネッリの物語』	6
『ウルフ谷の兄弟』	6
『TN君の伝記』	7
『見習い物語』 上下	7
『ノリー・ライアンの歌』	8
『豚の死なない日』『続・豚の死なない日』	8
『シカゴよりこわい町』	9
『砦』	9
『草原に雨は降る』	10
『イシ ―二つの世界に生きたインディアンの物語―』	10
『鬼の橋』	11
『一瞬の風になれ』 ①～③.....	11
『風をつむぐ少年』	11
『アナザー修学旅行』	12
『からすが池の魔女』	13
『靴を売るシンデレラ』	13
『黄色い目の魚』	14
『キルト―ある少女の物語』	15
『父がしたこと』	17
『フランバース屋敷の人々 1 愛の旅立ち』	16

『スピリットベアにふれた島』	17
『穴』	17
『めぐりめぐる月』	18
『ヒルクレストの娘たち』(1~4)	18
ファンタジー&SF	19
『たったひとつの牙えたやりかた』	19
『九年目の魔法』上・下	20
『キリエル』	20
『精霊の守り人』	21
『ザ・ギバー 記憶を伝える者』	21
『とざされた時間のかなた』	22
『これは王国のかぎ』	22
『トムは真夜中の庭で』	23
『村田エフェンディ滞土録』	23
『時をさまようタック』	24
名作・古典	24
『秘密の花園』	24

『緋色の皇女アンナ』

トレーシー・バレット／作 山内智恵子／訳 徳間書店 2002年

「わたしはほほえみ返さなかった。わたしが誰だか知らないのかしら。わたしに友だちづらすなんて。・・第一、友情がどういふものかは身にしみてわかっているわ。いまさら信じる気はないのよ。」

11世紀後半、ビザンチン帝国皇帝アレクシオス1世の皇女として生まれたアンナは、世継ぎとしての教育を受けて育った。しかし、弟ヨハネスを世継ぎに立てようとする祖母との皇位継承の争いに敗れ、修道院に送られる。彼女がそこで得たものは。

実在の人物であった皇女アンナを取り上げたこの話は、中世女性の成長物語として感動を誘う。

『思い出のマーニー』上・下

ジョージ・ロビンソン／作 松野正子／訳

岩波少年文庫 2003年

心が閉ざされている養女アンナは、シーラ・ベンダーや、あっけし草の生えている湿地で一人で過ごす中、初めて、お邸の裏窓に映る女の子マーニーと友達になれましたのに・・・。

美しい文章の中で、少女時代の記憶が、いかに人生を支えるか、考えさせられました。

『海の島 ステフィーとネッリの物語』

アニカ・トール／作 菱木晃子／訳

新宿書房 2006年

第二次大戦下 ウィーンでユダヤ人医師の父と歌手の母のもとで華やかな生活を送っていたステフィー12歳とネッリ7歳の姉妹。

そのころ辛くも中立を保っていたスウェーデンに子どもだけ500人の移住を受け入れるという制度があった。

二人はナチスを逃れて親元を離れスウェーデンの寂しい小島にやってくる。

姉妹は別々の家庭に引き取られ成長する。

決して豊かではない中で 言葉も宗教も異なる外国人、しかもユダヤ人の子供を家庭に引き取り深い愛情をそそぐ養親たちに感動！

日本人には出来るか？この物語は姉妹の、特にステフィーの成長を追って、「睡蓮の池」「海の深み」「大海の光」と続きます。

『ウルフ谷の兄弟』

デーナ・ブルッキンズ／作 宮下嶺夫／訳

評論社 1984.12.20 発行

2010.1.30 改訳新版あり

アメリカの女流ミステリー作家の作品。最初から、ハラハラドキドキ。12歳と9歳の少年が、母親を亡くし、伯父さんを頼って、昔オオカミが棲んでいたというウルフ谷の暗い夜道へ入っていく。すると、どこかで、あやしい、足音がする。誰かに後をつ

けられている。殺人事件に巻き込まれるなど苦難の中、兄弟は助け合っけなげに生き抜く。

『TN君の伝記』

なだ いなだ／作 司 修／画

福音館文庫 1976年版

激動の幕末から明治にかけて活動した実在の思想家、土佐藩足軽の子に生れたTN君。理想の政府を作りたいと奔走するが、政治にはお金がつきもの、金策が思うようにならず、志かなうことなく遂に破滅へと向かってしまう。

幕末から明治という時代に一人の人間がどう生きたかを知ろうとして欲しい（著者の言葉）

『見習い物語』上下

レオン・ガーフィールド／作 藤 健一／訳

岩波少年文庫 2002年

18世紀中ごろ、技術革新と生産規模の拡大をもたらした産業革命。その華々しいイギリス・ロンドンの下町では一定の年齢になると、多くの子供たちがさまざまな職業（点灯夫・産婆・質屋・葬儀屋・皮屋・印刷屋等）の見習いに出され、親方のもとで7年間の辛い奉公につくのでした。年季を終えても、立派な職人になるものばかりではなく、中には悪の道に走るものもいました。恋もしたい、バラ色の夢もある若者たちの生きざまを12編にまとめた物語。

『ノリー・ライアンの歌』

パトリシア・ライリー・ギフ／作

もりうちすみこ／訳 さえら書房 2003年

19世紀、アイルランドを襲ったジャガイモ飢饉。その上容赦なく続くイギリス人領主による搾取。主人公の少女ノリーは先に希望を抱いてアメリカに渡った姉の「あんたには歌がある。あんたは家族のかなめよ。ほんとにたいした娘」の言葉を心の支えに、飢餓に瀕する家族を必死に守りぬく。終盤、生きる術を授けてくれた老婆アンナのノリーへ寄せる愛情の深さが胸に迫る。歴史の年表にはたった1行。だがそこにはたくさんのストーリーがあるとあらためて気づかされる。

『豚の死なない日』『続・豚の死なない日』

ロバート・ニュートン・ペック／作

金原瑞人／訳 白水社 1996年

アメリカのヴァーモント州に住むシェカー教徒の家族の生活ぶりが描かれている。

シェカー教徒たちは非常に禁欲的で「フリル」（なくても済むもの）を嫌う。父親は生活のために豚を殺す仕事についているが、息子は父親を尊敬し誇りに思っている。

つましい生活の中に、本来の人としての豊かな営みが垣間見られ、心温まる作品だ。

『シカゴよりこわい町』

リチャード・ペック／作 斎藤倫子／訳

東京創元社 2003年

夏休み、シカゴに住む兄妹ジョーイとメアリ・アリスは、田舎町にいるおばあちゃんのところに泊まりに行った。シカゴと比べたら死ぬほど退屈なはずの田舎町で巻き起こるさまざまな出来事。常識なんかぶっ飛ばせ式のおばあちゃんの大活躍は痛快でスカッとして、あとからほろっとする。

こんなおばあちゃんに逢いたい、というか、なりたい……。続編の『シカゴより好きな町』『シカゴよりとんでもない町』もとてもおすすめ。

『砦』

モリー・ハンター／作 田中明子／訳

評論社 1981年

すごい本に出会った。教えてもらってよかった。時代は、2000年前のケルトの世界。スコットランド北部にある集落の物語。ローマ軍が攻めて来て、奴隷狩りをすることに対抗して、ドルイドの長ドムナル（宗教の祭祀の長）は戦えと言い、族長のネクタンは、内陸に逃げようと主張して対立する。しかし、コルは、円形の砦を築けば逃げずに戦えるという着想を持っていた。登場人物の描写、緊張感あふれる場面描写、空気や音まで感じられる筆力がすばらしい。

1974年度カネギー賞受賞作

『草原に雨は降る』

シェイラ・ゴードン／作 犬飼和雄／訳

ぬぶん児童図書出版 1989年

南アフリカの黒人少年テンゴは、農場主の甥で白人の少年フリッキーと深い友情で結ばれていたが、成長するにしたがって黒人差別の理不尽さに目覚め、学問の道を目指す。しかし、折から起こった全国的な若者の抵抗運動に巻き込まれ、「学問」か「運動」かの選択を迫られる。暴動の中で敵として出会ったテンゴとフリッキーは、白人の立場、黒人の立場から本音を出して語あう。

『イシ ―二つの世界に生きたインディアンの物語―』

シオドーラ・クローバー／作 中野好夫・中村妙子／訳

岩波書店 1977年

イシは北米インディアン、ヤヒ族の最後の生き残りである人物、この物語の主人公です。ゴールドラッシュに沸くカリフォルニアの地で白人の目に触れないようにひっそりと暮らしていました。イシの家族「母、伯父、祖父、祖母、従妹、そして兄のような存在のティマウイ」そのすべてを失ってたった一人の生き残りになってしまったイシ。彼は、1911年に発見され、カリフォルニア大学人類学科の付属博物館に暮らしました。この主人公の数奇な一生とどうして彼ら原住民のインディアンたちが次々と亡んでいかなければならなかったか。「イシの生活、ヤヒ族の古い世界、イシの目を通して見た白人の世界を描こうとした」と著者はあとがきに語ります。

私は描かれたイシの人柄に強く惹かれました。

『鬼の橋』

伊藤 遊／作 太田 大八／画

福音館書店 1998年

街灯も家々にも電灯などない平安時代。夜の闇の深いところから鬼は橋を渡ってきます。橋のこちら側は現世、あちら側は死者の住む世界。その世界を行き来したという実在の人物小野篁には数々の逸話があるそうです。子どもから大人に成長しつつある少年は迷いながらも自分の道を見つけていきます。

『一瞬の風になれ』①～③（イチニツイテ・ヨウイ・ドン）

佐藤多佳子／作 講談社 2006年

2006年に出版された高校の陸上部を舞台にした長編小説。高校で陸上部に入部した一人の男子高校生と仲間たちの短距離走にかける熱い思いと葛藤の爽やかな一冊です。バトンをつなぐリレーの一瞬の疾走にはたくさんの物語がつまっています。高校時代のスポーツにかける情熱がふとよみがえる・・・そんな一冊です。

2007年 本屋大賞受賞、第28回 吉川英治文学新人賞受賞。

『風をつむぐ少年』

ポール・フライシュマン／作 片岡しのぶ／訳

あすなる書房 1999年

短気な高校生ブレントは、幾度めかの転校先でパーティーに行く。気分を害して帰り道、思いあまって死のうとするが、自分で

はなく、後方から来た車に乗っていた女子学生が死んでしまう。

自分の一瞬の過ちが人を殺してしまった。相手の両親から求められた償いは、「アメリカ大陸の四隅に風の人形をたてる」ことだった。

ブレントは、後悔の念にさいなまれながら、自己と対峙し、一人で長距離バスで大陸を旅していく。やがてひとつひとつの風の人形は、ブレントの知らない人々の人生を少しずつ変えていく。小さな風は、新たな風を起こし、さらに遠くへ紡がれていく。

『アナザー修学旅行』

有沢佳映／作 講談社 2010年

修学旅行に行かなかった中学三年生の居残り組6人の生徒の三日間の物語。語り手の三浦佐和子は足の骨折、売れっ子タレントはストーカー恐さに、旅行直前に怪我をした「ヤクザインテリ」と渾名される男子生徒・・・

など不参加の理由はさまざま。個性の違う生徒たちが代替授業をうけることになるが、自習ばかりでまじめになれない。そんな折困ったことに直面する。みんなで解決しようと相談するうち心の中を打ち明けるようになる。現代っ子達がもっている優しさが読者の気持ちを暖かくしてくれる。

この三日間が私の――私たちの修学旅行だったと結んでいる。

講談社児童文学賞新人受賞作品

『からすが池の魔女』

E. G. スピア／作 掛川恭子／訳 岩波書店 1989年

両親を亡くし、西インド諸島のバルバドス島で祖父と暮らしていた主人公キットが、祖父の死後、まだ見ぬ母の妹を頼って、帆船イルカ号に乗り、アメリカのニューイングランド地方にやってきた所から物語が始まる。

レイチェル叔母はピューリタン教徒を好きになり、宗教の自由を求めて一緒にアメリカ大陸へと渡り、荒々しい自然の中で新しい生活を切り開いていく。レイチェル叔母は突然やってきたキットを初めから受け入れてくれたが、厳格な叔父は歓迎しなかった…。

キットは一日働き詰めの生活や、堅苦しいピューリタン社会のしきたりに馴染めずにいた。そんな中で出会った老婆がからすが池の妖しい女、ハンナだった。ハンナはクエーカー教徒ということだけで周りから魔女と呼ばれていたが、キットはハンナのそばで心からくつろぎ、安心感とともに暖かい人間の心を味わう。

物語の背景には、宗教的、歴史的なものがあるが、何が人として尊いのか考え直させてくれる本だと思う。

『靴を売るシンデレラ』

ジョーン・バウアー／作 灰島かり／訳

小学館 2009年

道路の標識のように、人生という道にも、「注意せよ」には黄色、「前進不可」には赤色、「正しい行い」には青信号が輝いてくれたら生きやすくなるのに。

高校二年生のジェナは、靴やの店員。アルバイトながらもすごく売る。ジェナの靴に関するこだわりは、こんな店員さんに巡り会えたらと思わせるほど。

そんなジェナが、ひよんなことから靴と共に生きているような老女社長の運転手に抜擢され、時流に乗る時期社長と対決する老社長を助けながら大陸を横断。それは、ジェナにとって自分発見の旅のスタートだった。

『黄色い目の魚』

佐藤多佳子／作 新潮社 2005年

この本は 高校二年生の同級生である 木島悟と村田みのりこの二人のそれぞれの立場、視点で章ごとに交互に展開している。両親が離婚している木島悟は7年8カ月ぶりに父と会うことになり、父の家に行き父の描いた沢山の絵を見て自分も絵を描くのが好きなことに気づく。

村田みのりは一見何の問題もない家庭に育ちながら不器用で素直になれず家族ともクラスの友達ともうまく付き合えない。唯一絵描きであり漫画家である叔父（母の弟）だけが好きで、彼のところに入り浸り製作の実際を見ている。その中で絵を見る目は確実に育ち将来はギャラリーのオーナーなど絵にかかわる仕事をしたいと思っている。

ある時、美術の時間にたまたま木島がみのりの絵を描くことになり、それをきっかけに二人の交際がはじまる。

木島のサッカー部での活動、叔父のモデル似鳥ちゃんとのこと、木島の妹の家出など二人の周辺の出来事を通して、一年間成長していく姿を読者も見守ることになる。

傷つきやすくまわりも傷つける思春期 でもその純粹さが胸

を打つ。

タイトルの「黄色い目の魚」はみのりが小学一年生の時に描いた絵に由来する。

『キルトーある少女の物語』

ネーザン・テリス／作、堂浦恵津子／訳

晶文社 1990年

18歳の少女ルネは貧しい家族を助けるため親のすすめるお金持ちの男性との結婚を気の進まないまま決意する。相手は子持ちで再婚。

嫌なことを忘れようと嫁入り道具のパッチワークキルトをつくりはじめる。キルト作りに没頭するあまり食欲はなくなり拒食症になる。彼女はだんだんやせ細り弱っていく……。 「死にたくない！」と叫びながら。

普通の少女が思うように生きられなかった哀しい生涯とキルトの出来あがっていく様子が見事に描かれている。

1988年 ニューヨーク市公立図書館から「最優秀ヤングアダルト図書」に選出されている。

『穴』

ルイス・サッカー／作 幸田敦子／訳

講談社 1999. 10. 25 発行 講談社文庫 2006. 12. 15 発行

スタンリーは、スニーカーを盗んだと間違われ有罪となってしまう。砂漠の真ん中の矯正施設に入れられ、灼熱の太陽のもと、来る日も来る日も、穴を掘らなければならない。それというもの、あんぼんたんのへっぽこりんの豚泥棒のひいひいじさんがその

昔、約束を破ったばかりに、子々孫々にまで、呪をかけられたせいかもしれない。ありそうにない、変なお話。でも、その読後感のなんと爽やかなこと。運が悪くても、あきらめない勇気が湧いてくる。文庫版の森 絵都の解説が面白い。ニューベリー賞受賞。

『フランバース屋敷の人々 1 愛の旅立ち』

K. M. ペイトン／作 掛川恭子／訳 岩波書店

新版 2009 年

孤児クリスチナは、親類の家を転々とした後、12歳の時フランバース屋敷に住むラッセル伯父に引き取られる。そして三人の少年と運命的な出会いをする。

ラッセル伯父にはマークとウィリアムの二人の息子がいた。兄のマークは父親に似て、乗馬と狩猟が大好きだが、傲慢で粗暴。しかしクリスチナは反発しながらも魅かれ続ける。弟のウィリアムはラッセル一族の異端児で、落馬をして片足が不自由になる。馬よりも飛行機の魅力に惹かれていく。クリスチナとは年齢も近いせいかわりとさせる存在だ。

そしてもう一人は、フランバース屋敷の馬丁のディック。実直な少年で、クリスチナに乗馬の手ほどきをする。陰ながらクリスチナをやさしく見守る。

第一次世界大戦下のイギリスを描いているが、このフランバース屋敷を舞台として繰り広げられる少女クリスチナの愛と成長の物語。

第二巻「雲のはて」

第三巻「めぐりくる夏」

第四巻「愛ふたたび」上下

『スピリットベアにふれた島』

ベン・マイケルセン／作 原田 勝／訳

鈴木出版 2010年

アメリカ、ミネソタ州に住む15歳の少年コールは、常に心に怒りを抱え、すでに人生の半分を警察の世話になっている。ある日とうとう同級生のピーターに後遺症が残るほどの重症を負わせてしまう。

刑務所行きを逃れたいが為、コールは先住民トリンキッド族の血を引く保護観察官ガーヴィーの勧めで「サークル・ジャスティス（正義の輪）」の手続きを受け、アラスカ州南東部の無人島に1年間追放される。自力で逃げ出してやるさ、と事態を甘くみていたコールは、その島でスピリットベアと呼ばれるクマと遭遇。壮絶な戦いの後、生死の境をさまよううち、コールの中で何かが変わり始める。

随所に印象的に描かれるトリンキッド族の習俗。実際にアメリカで従来の懲罰的な裁判制度を補完するものとして導入されている「サークル・ジャスティス」の制度。加害者・被害者双方の救済をめざすという手法が斬新的で驚きだった。二度目の追放生活でコールは被害者ピーターを救済できるのか・・・。

サークル、輪、がこの作品のラストまで貫かれる鍵となる。あなたの何かも変わるかもしれない一冊。

『父がしたこと』

ニール・シャスターマン／作 唐沢則幸／訳 くもん出版 1997年

11歳のプレストンと弟のタイラーから永久に母親を奪ったの

は大好きな父親でした。

現実に起きたこの悲劇とその後の家族の苦しみに救いはあるのでしょうか？「自分の苦しみを乗り越えた人間は人の痛みも分かち合えるのだ」と訳者は結びます。

『めぐりめぐる月』

シャロン・クリーチ／作 もぎかずこ／訳

講談社 1996年

「人をとやかくいえるのは、その人のモカシンをはいてふたつの月が過ぎたあと」巻頭のアメリア・インディアンの言葉が物語を読み進むにつれ、じわじわと胸に迫ってくる。

13歳の少女サマランカは、突然姿を消した母親に会うため、祖父母に誘われて、アメリカのオハイオ州ユークリッドから、アイダホ州ルーイストンまで約3千キロのアメリカ横断の旅に出る。道すがら祖父母にせがまれて、親友のフィービーをめぐるミステリアスな物語を語るうち、サマランカはその物語の裏に自分や母の物語が隠されていることに気づいていく。どこかキュートな祖父母を初め、個性的な脇役のエピソードが、ラスト数10ページで見事にリンクする。時間をかけて人とじっくり向き合おう、読み終わるとそんな気持ちになっていた。

『ヒルクレストの娘たち』（1～4）

R・E・ハリス／作 脇 明子／訳

岩波書店 1995年

- ① 丘の家のセーラ
- ② フランセスの青春

③ 海を渡るジュリア

④ グウェンの旅立ち

ヒルクレスト屋敷に住む4人姉妹が母を失い孤児となったのは17歳、15歳、13歳、7歳の時だった。絵の才能に恵まれた3人の娘たち（フランセスは風景画を、ジュリアは肖像画を、グウェンは花の絵を得意とした）と文学に優れた才能を持った末娘のセーラ。それぞれの才能を活かし、恋をし、それぞれに道を開いていく4人姉妹の成長物語。

娘たちの後見人を引き受けてくれたマッケンジー牧師の家には、4人姉妹に対をなすようにガブリエル（21歳）ルーシー（18歳）ジョフリー（15歳）アントニー（12歳）がいた。第一次世界大戦が始まると若者たちは勇んで戦場へ行った。アントニーとジョフリーは戦死し、生き残ったガブリエルも負傷して生死をさまよった。

第一部はセーラから見た世界。第2部はフランセス、3部はジュリア、4部はグウェンと、同じ出来事がそれぞれの立場から描かれ、見えなかったもの、隠されていたものが別の角度から光を当てられて明らかにされていく。

ファンタジー&SF

『たったひとつの冴えたやりかた』

ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア／作

浅倉久志／訳 早川書房 1987年

SFのテーマの一つ、異星人との初めての出会いを描いた作品。

見た目も風習も違う相手を友好的に理解しようとするか、野蛮と決めつけて退治しようとするか。それによって、歴史も変りうるのだと考えさせられる作品です。25年ほど前、東西冷戦の最中、若者達の間で口コミで広がっていった珠玉の名作。

『九年目の魔法』上・下

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作 浅羽莢子／訳

東京創元社 2004年

「魔法使いハウル」（『魔法使いハウルと火の悪魔』）の作者の手になる妖精もの。

永遠の若さと命を保つ妖精も、9年、あるいは81年に一度、ある方法で生き返えらなくてはならない。万聖節前夜、近所の屋敷で主人公ポーリィが遭遇したのは、その節目の儀式だった。迷い込んだ屋敷でおこる不思議で恐ろしい出来事の数々。ポーリィは、思いを寄せる青年トーマスを妖精の生贄から救い出すことができるのか。

『キリエル』

A. M. ジェンキンス／作 宮坂宏美／訳

あかね書房 2011年

主人公は墮落した天使キリエル。天使にも落ちこぼれがいたとは、それだけで親しみが湧く。地獄での仕事に飽き飽きしていたキリエルは、ある日アメリカの冴えない高校生ショーンの身体を乗っ取り、人間の生活を体感し夢中になる。何でも体験してやろうと意気込むが思い通りにもいかず……。地獄へ戻さ

れる日が近いと知ったキリエルは、ショーンに関わる3人の心に「K」キリエルの刻印を残そうとする。この世はほんのちょっとした働きかけで、相手も、取り巻く状況も変わっていくダイナミックな世界だと知ったから。果たしてキリエルの播いた種は実を結ぶのか！

『精霊の守り人』

上橋菜穂子／作 新潮社 1996年

新潮文庫 2007年

小学生高学年から中学生に絶大な人気シリーズの第1作目。神秘的な力を宿す皇子チャグムは、命を狙われ、女剣士バルサと旅をともにする。作者は文化人類学者でもあり、それぞれの国の風習や食べ物までしっかり描き込まれている。

日本の新しいファンタジーの古典とも言える。お子様へのプレゼントにおすすめの一冊です。

(表紙絵は、新潮文庫版)

『ザ・ギバー 記憶を伝える者』

ロイス・ローリー／作 掛川恭子／訳

講談社 1995年

遠い遠い未来の、どこかの小さなコミュニティのお話。

差別のない、飢えもない、争いもない、あらゆる苦痛を取り除かれた平和なコミュニティで、人々はありとあらゆる細かな規則を守りながら暮らしている。日常のすべては情報管理され、夢さえも逐一報告させられる。自分で選択し、その責任を負う苦痛を

なくすために、職業選択も配偶者の選択も子どもでさえ「長老会」が決定し配布する。・・・「理想の社会」「本当の幸福」とはなんだろう？ と考えさせられます。

『とざされた時間のかなた』

ロイス・ダンカン／作 佐藤見果夢／訳

評論社 2010年

ノア 17 歳。再婚した父とその新しい家族たちと夏休みを過ごすために北部の町から南部へやってきた。その昔、黒人奴隷たちが働いていた大農園の面影を残す大邸宅には美しいリゼットと息子ゲイブ、娘ジョージィがいた。

呪術によって「不老不死」の体を手に入れた一家の恐ろしい魔手から逃れるノア。13 歳のまま大人でもなく子どもでもない不安定な「時」をさまようジョージィの姿が痛ましい。

『これは王国のかぎ』

荻原規子／作 理論社 1999年

「失恋して二十二日目の梅雨のさなか、あたしは最低最悪の誕生日をむかえた。十五歳になった」・・・と、この物語は始まる。

ナント 15 歳で失恋した上田ひろみは、泣いて泣いて泣き疲れて眠り、目覚めるとアラビアンナイトの世界に入り込んでしまっていた。空を飛ぶ能力やいろいろな魔力を持った「魔神族(ジン)」に生まれ変わった彼女は、王位継承問題で陰謀渦まく王国の二人

の王子を助け大活躍する。「王国のかぎとは何か？」が鍵。

『トムは真夜中の庭で』

フィリパ・ピアス／作 高杉一郎／訳

岩波書店 2000年

深夜、トムは、眠れぬまま耳をすましていると。玄関ホールの大家さんの大時計が13回打つ。裏口を開けると、昼間の光あふれる美しい庭園。そこで、一緒に遊ぶ少女ハティは、逢う毎に成長していき、ある晩、ケム川のスケートの帰途……。

作者の生家が、そのまま舞台として使われており、作者存命中、見せていただいた。

『村田エフェンディ滞土録』

梨木香歩／作 角川書店 2004年

これこそ大人に薦めたい小説。

時は1899年 考古学研究のため東西文明の交錯する土耳其（トルコ）のイスタンブールへ留学した村田が 英国人女性ディクソン夫人の営む下宿に逗留し、そこで同宿人独逸人オットー 希臘人ディミトリス、料理人ムハンマドたち個性的な人々と交流しそれぞれの文化、言葉、宗教、生活習慣を理解し受け入れて行く。エフェンディとは「先生」くらいの敬称。狂言回しとして 拾われてきた鸚鵡が重要な役割を演じ絶妙のタイミングで叫び声を発し、ユーモアをかもしつつ展開させる。異国にあってさまざまな外国人を下宿させるディクソン夫人の胸中に深い興味を感じ

る。

国とは何だろうかと考えながら 小説として面白く読める一冊です。

『時をさまようタック』

ナタリー・バビット／作 小野和子／訳

評論社 1200円 1989年12月20日発行

人間の求めて止まない永遠の命を、もし授かったらどうだろう。本当に幸福なのだろうか？ 考えさせられる一冊。

フォスター家の一人娘、10歳のウィニーは、森から聞こえる美しい音色に誘われて、ある朝、意を決して、森へ出かける。泉のほとりで、永遠の命を持つタック一家の一人、17歳の美しい少年ジェシイに会う。文章は、流れる水、刻々と変化する空の色、短い命を謳歌する虫やカエルなどなど、移ろう自然をとらえて美しく描かれている。人の死も、そのサイクルの中にあると感じさせてくれる。

名作・古典

『秘密の花園』

F・H・バーネット／作 猪熊葉子／訳

堀内精一／画 福音館書店

1979.10.31 初版発行

100年も前に書かれた、あまりに有名な物語。しかし、古さは

感じられない。読むたびに発見がある。主人公のひねくれて、わがままな子ども達が、日本の現代っ子達に近い気がする。貧しい家のディックン少年と母親は、メリーとコリンの心の扉を開く。秘密の花園の扉を開くように。

大人の目で読むと良質の育児書にも思えた。土の香りも伝わってくる自然描写も美しい。別の訳書多数あり。

読んだ本一覧 (2006.8.22～2012.2.24)

数	月日	書名	著者名	出版社
1	06. 8. 22	アイアンマン	クリス・クラッチャー	ポプラ社
2		狐笛のかなた	上橋菜穂子	理論社
3	06. 9. 27	父がしたこと	ニール・シャスターマン	くもん出版
4		ゼバスチャンからの電話	イリーナ・コルシュノフ	ベネッセコーポレーション
5	06. 10. 26	天山の巫女ソニン	菅野雪虫	講談社
6		ともしびをかかげて	ローズマリ・サトクリフ	岩波書店
7	06. 11. 22	これは王国のかぎ	荻原規子	理論社
8		ザ・ギバー	ロイス・ローリー	講談社
9	07. 1. 25	Tバック戦争	E.L. カニグズバーグ	岩波書店
10		鬼の橋	伊藤 遊	福音館書店
11	07. 2. 22	D I V E !! (ダイブ)	森 絵都	講談社
12		めぐりめぐる月	シャロン・クリーチ	偕成社
13	07. 3. 30	川の上で	ヘルマン・シュルツ	徳間書店
14		愛のはじまるとき	K・M・ペイトン	晶文社
15	07. 4. 27	九月に	ロザムンド・ピルチャー	朔北社
16		まぼろしの白い馬	エリザベス・グージ	岩波書店
17	07. 5. 29	村田エフェンディ滞土録	梨木香歩	角川書店
18		幻の朱い実 上・下	石井桃子	岩波書店
19		ノンちゃん雲に乗る	石井桃子	福音館書店
20	07. 6. 29	黄色い目の魚	佐藤多佳子	新潮社
21		ペーターという名のオオカミ	那須田淳	小峰書店
22	07. 8. 3	夏の終わりに	ジル・ペイトン	岩波書店
23		海鳴りの丘	ジル・ペイトン	岩波書店

24		ライ麦畑でつかまえて	J. D. サリンジャー	白水社
25		キャッチャー・イン・ザ・ライ	J. D. サリンジャー	白水社
26	07. 9. 14	アルジャーノンに花束を	ダニエル・キイス	早川書房
27		幻のトマシーナ	ポール・ギャリコ	大和書房
28	07. 10. 19	かかし	ロバート・ウエストール	福武書店
29	08. 1. 25	闇の戦い(1)	スーザン・クーパー	評論社
30		テレビシアにかける橋	キャサリン・パターソン	偕成社
31	08. 2. 22	豚の死なない日	ロバート・ペック	白水社
32		ジョコンダ夫人の肖像	カニグズバーグ	岩波書店
33	08. 12. 14	さすらいのジェニー	ポール・ギャリコ	学研
34		妖精王の月	O・R・メリング	講談社
35	08. 4. 4	九年目の魔法	ダイアナ・ジョーーンズ	東京創元社
36		砦	モリー・ハンター	評論社
37	08. 5. 16	ルイジアナの青い空	キンバリー・ホルト	白水社
38		ケルトの白馬	ローズマリ・サトクリフ	ほるぷ出版
39	08. 6. 20	イルカの家	ローズマリ・サトクリフ	評論社
40		ザッカーリービーヴァーが町に来た日	キンバリー・ホルト	白水社
41	08. 7. 18	海が聞こえる	氷室冴子	徳間書店
42		クリスピン	アヴィ	求竜堂
43	08. 8. 22	西日の町	湯本香樹美	文芸春秋社
44		時の旅人	アリスン・アトリー	岩波書店
45	08. 9. 19	GO	金城一紀	角川書店
46		シカゴよりこわい町	リチャード・ペック	創元社
47	08. 10. 24	キルト	スーザン・テリス	晶文社
48		精霊の守り人	上橋菜穂子	偕成社

49	08. 11. 28	13才の沈黙	カニグズバーグ	岩波書店
50		フランバース屋敷の人々	K・M・ペイトン	岩波書店
51	08. 12. 18	ペーターの赤ちゃん	グン・ヤコブソン	ポプラ社
52		エイジ	重松 清	朝日新聞社
53	09. 1. 23	レモネードをつくろう	ヴァージニア・ウルフ	徳間書店
54		タトゥーママ	ニック・シャラット	偕成社
55	09. 2. 20	ストーンハート	チャーリー・フレッチャー	理論社
56		第九軍団のワシ	ローズマリ・サトクリフ	岩波書店
57	09. 3. 27	ノウと私	デルフィーヌ・ドゥ・ヴィガン	日本放送出版協会
58		ニムオロ原野の片隅に	高田 勝	福音館書店
59	09. 4. 24	イシ	シオドーラ・クローバー	岩波書店
60		象と耳鳴り	恩田 陸	祥伝社
61	09. 5. 21	時をさまようタック	ナタリー・バビット	評論社
62		ノリー・ライアンの歌	パトリシア・ライリー・ギフ	さ・え・ら書房
63	09. 6. 26	妖精ディックのたたかい	キャサリン・ブリックス	岩波書店
64		トムは真夜中の庭で	フィリパ・ピアス	岩波書店
65	09. 7. 24	穴	ルイス・サッカー	講談社
66		ドイツ兵の夏	ベティ・グリーン	偕成社
67	09. 8. 21	源平の風	斉藤 洋	偕成社
68		クレージーバナナ	バーバラ・ワースパ	徳間書店
69	09. 9. 25	グリーン・ノウの子どもたち	L・M・ボストン	
70		からすが池の魔女	E. G. スピア	岩波書店
71	09. 10. 23	とんび	重松 清	角川書店

72		緋色の皇女アンナ」	トレーシー・バレット	徳間書店
73	09. 11. 27	辺境のオオカミ	ローズマリ・サトクリフ	岩波書店
74		イングリッシュ ローズ の庭で	ミッセル・マゴリアン	徳間書店
75	09. 12. 18	わたしの生まれた部屋	ポール・フライシュマン	偕成社
76		図書室の海	恩田 陸	新潮社
77	10. 1. 22	床下の小人たち	メアリー・ソートン	岩波書店
78		世界を信じるためのメソ ッド	森 達也	理論社
79	10. 2. 19	転校生レンカ	H. ジェレーズニコフ	福音館書店
80		12月の静けさ	メアリー・ダウニン グ・ハーン	祐学社
81	10. 3. 26	秘密の花園	F. H. バーネット	岩波書店
82		トラム、光をまき散らし ながら	名木田恵子	ポプラ社
83	10. 5. 7	ハーフ	草野たき	ポプラ社
84		ウルフ谷の兄弟	デーナ・ブルッキンズ	評論社
85	10. 6. 18	思い出のマーニー	ジーン・ロビンソン	岩波書店
86		とざされた時間のかなた	ロイス・ダンカン	評論社
87	10. 7. 16	しずかな日々	椰月美智子	講談社
88		宝島	スティーブンソン	岩波書店
89	10. 8. 20	リリース	草野たき	ポプラ社
90		草原に雨は降る	シェイラ・ゴードン	ぬぶん児童図書 出版
91	10. 9. 24	TN君の伝記	なだ いなだ	福音館書店
92		ジョディの旅	コリン・シール	ぬぶん児童図書 出版

93	10. 10. 29	丘の家のセーラ (ヒルクレストの娘たち)	R. E. ハリス	岩波書店
94		フランススの青春 (ヒルクレストの娘たち)	R. E. ハリス	岩波書店
95	10. 12. 3	サラシナ	芝田勝茂	あかね書房
96	11. 1. 21	スピリットベアにふれた島	ベン・マイケルセン	鈴木出版
97		一瞬の風になれ	佐藤多佳子	講談社
98	11. 2. 18	あそこはフリードリヒがいた	H・ペーター・リヒター	岩波書店
99		靴を売るシンデレラ	ジョーン・パウアー	小学館
100	11. 3. 18	たったひとつの冴えたやりかた	J・ティプトリー・ジュニア	早川書房
101		わすれ川をこえた子どもたち	マリア・クーペ	富山房
102	11. 4. 22	飛ぶ教室	エーリッヒ・ケストナー	岩波書店
103		青銅の弓	エリザベス・ジョージ・スピア	岩波書店
104	11. 5. 27	青いイルカの島	スコット・アデル	理論社
105		海の島—ステフィとネッリの物語	アニカ・トール	新宿書房
106	11. 6. 24	哲夫の春休み	斎藤淳夫	岩波書店
107		北極星をめざして	キャサリン・パターソン	偕成社
108	11. 7. 22	小川は川へ 川は海へ	スコット・オデール	小峰書店
109		見習い物語	レオン・ガーフィールド	福武書店
110	11. 8. 26	キリエル	A. M. ジェンキンス	あかね書房
111		故郷	後藤竜二	偕成社

112	11. 9. 16	風をつむぐ少年	ポール・フライシュマン	あすなろ書房
113	11. 10. 28	ハティのはてしない空	カービーラーソン	鈴木出版
114	11. 11. 25	ささやき貝の秘密	ヒュー・ロフティング	岩波少年文庫
115		風が強く吹いている	三浦 しをん	新潮社
116	12. 1・27	モンスーン、あるいは白いトラ	クラウド・コルドン	理論社
117		冬の入り江	マッツ・ヴォール	徳間書店
118	12. 2. 24	金色の野辺に唄う	あさのあつこ	小学館
119		アナザー修学旅行	有沢佳映	講談社
120	12. 4. 27	アンネの日記（完全版）	アンネ・フランク	文芸春秋社
121		ブリジנגガメンの魔法の宝石	アラン・ガーナー	評論社

執筆者一覧（50音順）

池田 信子 伊藤 規子 鵜飼 恵 内田 清子
大山 容子 奥村 公子 重村 ヒロミ 杉本 順子
杉山 登志枝 平井 吉子 渡部 詔子

だれ ヤングアダルトブックス
『大人が読んでも面白い Y A の本』

発行日 2012年 5月25日

編集 YAを楽しむ会

発行 小平市図書館友の会

<http://www4.plala.or.jp/Nori/>

